

平成22年度 自己評価計画に対する最終報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および次年度の扱い(改善策等)
<p>1. 学習指導、進路指導の充実 (個に応じた指導により、基礎基本の定着と学力の増進を図るとともに、チャレンジ精神を涵養しながら、各コースの特性を活かした進路指導の充実を図り、生徒個々の早期の目標の設定を促す)</p>	<p>授業の改善と、基礎学力の充実 ① 授業の進め方を工夫し、生徒が授業に集中し、学習活動に参加するようにする。</p>	<p>授業に集中し、学習活動に集中していると答える生徒が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。</p>	<p>B 1月に実施した生徒へのアンケートでは73.2%であった。</p>	<p>生徒による「授業評価」では、約80%が担当の先生の授業は分かりやすいと答えている。それと比較すると、授業に集中しているという生徒の割合はやや少なめであり、授業などにおいてさらに工夫が必要である。</p>
	<p>② 前・後期、各1回校内公開授業週間を設け、研究授業・研究協議会を充実する。また、研究授業における協議内容を全職員に報告する。</p>	<p>公開授業週間等を利用して年間の授業参観数の平均が A 5回以上 B 4回 C 3回 D 3回未満</p>	<p>A 1月に実施した教職員へのアンケートでは、A71.7%、B10.3%、C12.8%、D5.2%であった。</p>	<p>年間2回実施している授業互見週間で教員同士の授業参観が多く行われている。今後は、よりよい授業となるためのお互いの忌憚のないアドバイスを活発に出来るようにしたい。</p>
	<p>③ 家庭学習の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。</p>	<p>課題の提出率が A 80%以上である。 B 60%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。</p>	<p>B 1月に実施した生徒へのアンケートでは67.5%であった。</p>	<p>提出率は昨年とほぼ同じ数値で改善が見られなかった。1月に実施した生徒へのアンケートでは、3学年全体の家庭学習時間は約49分で昨年より10分近く増えているが、毎日の家庭学習を行わないと答えた生徒が3学年全体で約32%いた。学力向上を目標として課題提出への指導を粘り強く行う必要がある。</p>
	<p>進路指導体制の確立と目標の早期設定 ④ キャリア教育を充実させ、高校生活における個々の目標を設定させる。</p>	<p>本校に入学して良かったと思う生徒が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。</p>	<p>A 1月に実施した生徒へのアンケートでは71.9%であった。</p>	<p>総合的な学習の時間等を活用したキャリア教育や社会人(本校卒業生)による進路講演会、大学生や専門学校生(本校卒業生)による進路ガイダンスなど、生徒が興味を引く取り組みを多く実施できた。生徒が進んで行動できる取り組みを継続していきたい。</p>
	<p>⑤ 個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。</p>	<p>具体的な進路目標を持っている生徒が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。</p>	<p>B 1月に実施した生徒へのアンケートでは67.1%であった。</p>	<p>担任による個人面談がきめ細かく頻繁に行われ、また進路ガイダンスも適宜実施され、生徒の進路意識が高まってきている。社会への興味関心をさらに深めさせる必要がある。</p>
	<p>⑥ 生徒に学習目標を設定させるとともに、個に応じたきめ細かな指導により、学力の増進を図る。</p>	<p>成績上昇者の増加が、 A 50%以上である。 B 40%以上である。 C 30%以上である。 D 30%未満である。</p>	<p>B 校外模試で7月→11月の成績上昇者は、1年50%、2年45%であった。</p>	<p>1学年では朝学習の充実などにより家庭学習時間が増加し、成績上位者の増加傾向が見られた。次年度でも1学年で朝学習を継続して行うが、今年度の反省を踏まえてより効果的なものとした。</p>
	<p>⑦ 視野を広げ、考える力を伸ばすため、3年間を見通した小論文指導を行う。</p>	<p>小論文・面接指導に関わったと答える教員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>D 1月に実施した教職員へのアンケートでは、55.3%であった。</p>	<p>小論文を課す国公立大推薦入試受験者が約20名おり、小論文指導は重要であるが、指導者がまだまだ限られた状態である。今後は小論文指導の研修会の内容・方法を一層工夫し、よりわかりやすいものにした。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>教員の授業参観、授業改善の取り組みは良い。90%の生徒が教員の熱意を評価しており、それらを生徒の自主的な学習につなげるようにして欲しい。芸術、外国語コースの特徴を生かして欲しい。普通コースも音楽・美術の良さを感じることが出来る取り組みを工夫してはどうか。小論文指導を進学希望者ばかりでなく、就職希望者にも行ったらどうか。書く力、話す力など社会に出て活用できる力をつけてほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>今後も、教員の計画的な研修や授業改善を行い、教員一人ひとりの教育力を総合的に高めていく。生徒に対しては、学習習慣の定着を図り、基礎・基本を確実に身に付けるとともに確かな学力の育成を図っていく。また、本校の特色を生かし、芸術コースや外国語コースの教育活動を様々な場面で紹介していく。進路については、早い段階から生徒の進路意識を高め、小論文指導等を充実させ、生徒の書く力や話す力などを育てていきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準および判定結果	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）
2 望ましい生活習慣の確立 （通学マナーをはじめとする社会規範を守り、遅刻や欠席を減らし、登下校時等の挨拶を励行するなど、基本的な生活習慣の確立を図る）	⑧ 基本的な生活習慣の確立と社会的規範意識の育成 バスの乗車マナーや自転車マナーの向上を目指す。	自分自身の通学マナーは良いと答える生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 1月に実施した生徒へのアンケートでは89.6%であった。	概ね通学マナーは良好であったが、バスの乗車マナーや自転車による危険運転の苦情が時々寄せられたので、安全教育の重要性ともからめ、マナーの向上に努めたい。
	⑨ 家庭との連携を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導（生徒心得の遵守）を全職員で行う。	自分自身は、服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 1月に実施した生徒へのアンケートでは84.4%であった。	全職員が生徒指導に対する共通認識を持ち、一丸となった指導をさらに推し進めたい。
	⑩ 「遅刻防止週間」を毎月1回以上設け、遅刻半減を目指す。	遅刻者の延べ人数が A 800人以下である。 B 1000人以下である。 C 1200人以下である。 D 1200人を超える。	B 延べ人数が873人と なっている。	昨年度（1020人）に比べ、遅刻者は大きく減少した。次年度も全職員一丸となって、遅刻者減少に取り組むたい。
学校関係者評価委員会の評価	バスの乗車マナーの悪い生徒が見られる。 学校は落ち着いているようであるが、生徒にもっと元気が欲しい。自ら積極的に挨拶や言葉かけができれば良い。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒の通学マナーに関するアンケートは概ね良かったが、バスの乗車マナーや自転車の危険運転などの苦情が時々寄せられているので、引き続き、全教職員で粘り強く指導していく。生徒会の取り組みもあり、遅刻者は大きく減少している。朝の挨拶運動も生徒会を中心にして継続的に取り組んでおり、今後も活気ある学校づくりを目指していきたい。			
3 心豊かな人間性の育成 （自主・自律の建学精神のもと、ボランティア精神や環境保護の精神を培い、地域社会から信頼される心豊かな人間性の育成を図る）	⑪ 地域社会から信頼される心豊かな人間の育成 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について考えを深めることができたと感じる生徒が、 A 80%以上である。 B 60%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	C 1月に実施した生徒へのアンケートでは58.6%であった。	「構成的グループエンカウンター」を年度当初（4月）は全学年全クラスで実施できたが、後期では各学年で実施できないクラスがあった。判定結果はCであるが、実施によってかなりの生徒が人と人との関わり方について理解を深めることができたと感じており、次年度も積極的に実施していきたい。
	⑫ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	ボランティア活動への参加率が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	D 1月に実施した生徒へのアンケートでは46.8%であった。	生徒会主催で3回「ボランティア清掃」を行い、多くの生徒が参加した。しかし、ボランティア活動に、自主的、積極的に参加しているという生徒はまだまだ少ない。生徒会が中心となって積極的な活動を呼びかけるとともに、ボランティア活動の意義をさらに理解させたい。
	⑬ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ の削減を目指す。	エコ活動の取り組みに積極的であると答える生徒・教職員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C 1月に実施したアンケートでは生徒が73.7%、教職員が92.1%、平均75.0%であった。	「エコ活動取り組みチェックシート」による調査では、リサイクルやごみ分別は良好だが、不要な照明を消す取り組みは不十分であった。次年度は、不十分な点を改善し判定結果の向上につなげたい。
学校関係者評価委員会の評価	「心豊かな人間性の育成」は基本的に大切なところであるが、評価の低さが気になる。達成度の判定でC、Dなのは、判断基準が厳しいからなのか。地域へのボランティア活動が減少しているが、他の近隣の高校から「除雪ボランティア」の問い合わせがあり、紹介している。辰巳丘高校の対応はどうか。ボランティア活動では生徒会の生徒の活動ぶりに感心した。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒会が中心となり、様々なボランティア活動を行っているが、その割には生徒の意識が低い。人としての在り方・生き方を考えさせるとともに、ボランティア活動の意義などを理解させ、信頼される心豊かな人間を目指した生徒の育成に努めていく。本校のエコ活動は順調に成果をあげているが、生徒の意識はまだまだ低いので、さらに意識向上に向けて取り組んでいく。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準および判定結果	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）
4 部活動・生徒会活動等の活性化 （部活動・生徒会活動を通じ、たくましい心と体を培い、積極的に活力有る人間の育成を図る）	⑭ 部活動・生徒会活動等の活性化 1年生には全学部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	部活動に加入している生徒の参加率が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	B 1月に実施した生徒へのアンケートでは、72.4%であった。	部活動の加入が90%を超える中での参加率である。特に大会直後や冬季期間での参加率が低い傾向にある。来年度は各部で数値目標を立て、顧問の働きかけを強めるなど高い参加率となるよう取り組みたい。
		部活動活性化への体制作りが強化され、部活動が活発になったと答える教職員が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C 1月に実施した教職員へのアンケートでは55.2%であった。	昨年度（75.0%）に比べ大きく低下した。水曜日を部活動の日とし放課後には全顧問で部活動の指導に当たるという校内での取り決めが、徹底していなかったことが原因の1つと考えられるので、改善に向けて体制づくりを行いたい。
	⑮ 体力測定記録の更新を各自に意識づけ、全学年を通した体力の向上を目指す。	男子12分30秒以内、女子7分45秒以内の生徒が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	A 男子は69.3%、女子は70.8%が目標タイムをクリアした。	男子の平均タイムは11分59秒、女子は7分20秒だった。昨年と比べ男子はインフルエンザの影響で17秒下回ったが、女子は2秒上回った。持久走の記録向上は、体力向上のみならず、授業への意欲向上にもつながるので、来年度も、「体力アップ1校1プラン」の取り組みとして継続したい。
⑯ 生徒一人ひとりが充実感・達成感をもてる生徒会行事を、企画・運営する。	各行事終了後の感想として、充実感・達成感があったと答える生徒が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C 1月に実施した生徒へのアンケートでは70.6%であった。	「辰巳祭」など個々の行事は盛り上がっているが、生徒全体の充実感、達成感という点では、まだまだ不十分であり、内容を見直し全員が行事にかかわれるような方向付けがさらに必要である。	
学校関係者評価委員会の評価	部活動を活性化させることで、人間性を高めることができる。試合では地域の人に応援に行ってもらおうなど、関心を持ってもらう体制も必要である。部活動の指導を行うには余裕が必要である。時間を保障する方向に改善できないか。運動部の低迷が気になる。上記の「⑭部活動が活発になった」に対し教職員の評価が昨年度よりかなり低い。学校活性化のため運動部の成績を上げて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	学校を活性化させるためには部活動の活性化が大きな要素の1つであり、そして部活動を通しての人格形成も重要である。教職員が部活動を指導する時間の確保のため、毎週水曜日は、原則として会議等は設定せず、生徒と一緒に活動する「部活動の日」とし、部活動の活性化につなげていく。また、本校の部活動の牽引役として強化部を指定し、全体のレベルアップを目指して取り組んでいく。			
5 広報活動の充実 （広報活動をさらに活発化させ、学校理解を深め、地域に開かれた学校作りを推進する）	⑰ 広報活動の拡充と開かれた学校作りの推進 カリヨンニュース等を充実させ、地域および地域の中学校との連携・理解を深める。	対前年度比の志願倍率が A 10%以上増加した。 B 5%以上増加した。 C ほぼ同じであった。 D 減少した。	D 一般入試の全体の志願倍率は、21%減少した。	一般入試における志願倍率は1.04倍から0.83倍に減少した。芸術、外国語の両コースで定員割れとなっており、両コースの日頃の取り組みを理解してもらおう粘り強い努力が必要である。芸術コースの取り組みを中心として、地域の中学校との連携は毎年深められている。
	⑱ ホームページをよりわかりやすいものに一新し、タイムリーな情報を発信する。	本校のHPでは、情報の発信が適宜行われていると答える保護者、教職員が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	A 1月に実施したアンケートでは、教職員が71%で、保護者は73%であった。	昨年度のアンケート結果は保護者43.5%であり、今年度大きく向上した。HP以外でも広報誌「カリヨンNEWS」を4回発行（昨年度は2回）しており、学校からの情報発信はスムーズに行われるようになった。次年度においても、より一層タイムリーな情報発信に取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校間の競争は厳しい。いかに特色を活かし志願倍率を高くするか。広報活動の工夫が必要である。卒業演奏会ではこの学校の特色が現れていた。他校にはない外国語・芸術コースの特色を出すことで志願者が増えるようにできないか。アンケート結果では、先生方も普通コースをアピールする取り組みについての評価は低くなっている。何が不足しているのか、PR・広報のあり方を考えるべきである。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	本校は県内でも有数の特色ある学校であり、芸術コースや外国語コースなどで様々な教育活動を行っている。しかし、中学生や地域住民の方々などに対する広報活動は、学校全体の取り組みとしては不十分であった面がある。音楽専攻と美術専攻が一体となった金沢市内や近郊の中学校での演奏会・展覧会・交流会や外国語コースの外国人との様々な交流会等をさらに充実させるとともに、ホームページでも活動状況をタイムリーに発信していく。			